

北海道YMCA みつかる。つながる。よくなっていく。

No.616 2023

# THE YMCA NEWS

12

北海道YMCA年間聖句 「だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に  
得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりに  
なる」(マタイによる福音書9章29節)



2023年11月27日発行  
1947年10月27日第3種郵便認可  
公益財団法人北海道YMCA  
〒064-081  
札幌市中央区南11条西11丁目  
Tel 011-561-5217  
Fax 011-563-0041  
発行人/秋葉聡志  
編集/湯井達海



## クリスマスメッセージ『共に生きよう！』

日本メノナイト帯広キリスト教会 牧師 伽賀 由さん(とち帯広YMCA委員)



近年の物価高騰に加え、世界中に広がる戦争や紛争、不景気や様々な格差社会と毎日のニュースを聞くと辛い事ばかりです。しかもどの情報が本当なのかフェイクなのか、判断するのも慎重にならざるを得ないのがSNSの現状です。世界中がコロナ禍を生き延び、誰もが精神的にも身体的にもまた社会的にも疲れを覚えつつ、それでもなんとか生きようとしていた時に、ロシアとウクライナの戦争に世界中が震撼し、しかも長くは続かないだろうと思った楽観視は見事に覆される羽目になっています。

広島で開催されたG7は「核抑止」の名目を不気味な担保とし、世界の政治的均衡の歪みがじわじわと崩れ、最近のガザへのイスラエルの攻撃のニュースは、正直これまで必死に踏ん張ってきた者の足元で、まるで主イエスを誘うサタンの声のように思えました。「見ただろう？聞いただろう？神など、本当はいないのだ」と。このサタンの誘惑の言葉に対抗する言葉を、私達人間は持ち得ないのだと思う。どんな英雄の言葉も、どんな政治家の言葉も、一時は感化されたとしても、人間は絶望に対抗する言葉を持ち得ない。

今、私達は子ども達や若者、シングルの親達、障害を負う者たちと共に、この様な益々複雑化し分断された社会・世界に生きています。「神は我々と共におられる。」(マタイ1章23節)だからクリスマスこそ、一時を忘れて楽しい気分で！と言えるでしょうか？もしクリスマスのメッセージが一時しのぎや気休めなら、福音の喜びは虚しいものです。

あるいは、だから終末は近いと不安を煽るなら、キリスト教会はカルトと何が違うのでしょうか？キリスト教会が確かに社会に伝える「神は我々と共におられる」という平和の福音・クリスマスのメッセージは、私達が生きる現実に生き抜く力と希望を与えるはず。「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」(第二コリント1章4節)。だから「泣く人と共に泣き」(ローマ12章15節)、困窮する者に支援が与えられます。

ワールドYMCAのサイトでウクライナを見ると今年2月23日の活動報告があり、危機的な状況の中でリーダー達が「足元に気を付けろ！」という地雷への安全教育を提供し、忍耐の中で活動を続けているとありました(One year later: YMCA Ukraine - World YMCA)。これは命の源である神、希望の源である神が彼らと共におられるという証しであり、神の現実です。神は決してあきらめてはおられない。ウクライナにおいても、それはガザにおいても神は決してあきらめず、神の救いを成されようとしておられる。だから私達は共に祈り、共に支え合い、共に声を上げ、この神へ応答しよう！神の平和の救いのために！メリークリスマス！



# カナダ・モントリオール語学研修



## 3年ぶりのカナダ語学研修実施

カナダ語学研修担当 中野川 千香代

コロナ感染拡大前、本校では、毎年カナダ語学研修を実施していました。2020年から3年間、この研修を中止していましたが、2023年が明けて、コロナに関する規制が緩和されるという情報があり、今年度はぜひこのカナダ研修を復活させたいという気持ちが高まりました。いろいろ調べていくうちに、航空券代金の高騰や、円安のために現地の物価が非常に高いという点が浮き彫りになりました。それに加えて、モントリオール YMCA 語学学校のシステムが変更になった経緯があり、様々な変更があることも視野に入れつつこのカナダ研修の準備を開始致しました。

3月に専門学校のスタッフが、モントリオールに視察に行き、コロナの状況や学校の様子を見に行きました。そして、モントリオールの現況や現地 YMCA のスタッフが手厚く歓迎してくれた話を聞き、研修をモントリオール Y で実施することを決定しました。4月に新学期が始まり、今回のカナダ研修を1カ月の期間のみに設定し希望者を募りました。2名が参加の意思を示し、すぐにカナダ研修事前授業が週2コマずつ始まり、出発に向けて様々な準備をしました。

そして、この2名は、7月28日に新千歳空港を出発し、成田経由でモントリオールに旅立ちました。今回は引率者がいないため、自分たちでこの1カ月の研修を乗り越えなければならないというプレッシャーからか、心配そうな顔をしている者もありました。モントリオールでは平日は学校で午前・午後授業を受け、土日は観光や友人と出かけたりしていたようです。ホームステイ先では、ホストファミリーと食事を共にしたり、人生について語り合ったり有意義な時間を過ごしました。学校では、クラスにフランス人、スイス人、メキシコ人などがいて、多国籍な生徒と学習し、放課後や休日には共に観光をしたり、外食をしたり日本では出会わないような方たちと交流できたようです。英語の授業は、慣れるまでは大変だったようで、脳をフル回転したせいか、平日は疲労困憊で放課後は帰宅し、食事を摂ったあと、宿題をして寝るという日々だったそうです。それでも、モン・ロワイヤルやノートルダム大聖堂などにも訪れ、モントリオールを満喫したようです。今年のモントリオールの夏はとても爽やかで気温も25度前後と過ごしやすかったと聞きました。

帰国してからは、すでに後期の授業が始まり、2名は英語学習や進路に向き合う日々ですが、私たちは今回の経験が、彼らの将来につながることを期待します。



## おめでとうございます！



### 第31回札幌年齢別水泳競技大会 50m 背泳ぎ

**1位 記録 31秒 69** たくみ るか **内匠 琉夏 さん**

※写真左から3番目



### 第2回北海道プログラミングコンテスト小・中学生部門

**佳作 入賞** まりや そら **真里谷 昊 くん**

## 札幌 2023 札幌 YMCA チャリティイベント

10月1日(日)、札幌YMCA国際協力チャリティイベントが開催されました。雨の予報を心配しておりましたが、暖かな晴天となり、昨年以上の来場者に恵まれ、無事終了しました。コロナが明け、昨年から少しずつ元のお祭りのような雰囲気を取り戻しました。習いたい泳ぎを丁寧に指導してくれるプライベートレッスンは昨年から大好評で枠を増やしました。子ども達を楽しめるゲーム・縁日コーナーでは、昨年大人気だったヨーヨーつりやひもくじ等に加え、トランポリンやストラックアウトなどカラダを動かす機会も大好評でした。お馴染みワイズメンズクラブの美味しいコーヒー販売や子ども達やベトナムの方が作った作品の物販も体育館に集合しました。大人気の第2回eスポーツ大会は事前の申込者が殺到し期待が膨らんだ開催となりました。ダンスの発表会へ向けて、昨年よりキレイのある動きやグループの統一を目指し練習を重ね、その成果を発表することができました。毎年恒例のビンゴ大会は、前日まで賞品の調達など沢山の方々に協力していただき、今年も大好評でした。当日はYMCAに関わる皆さんや地域の皆さんが来て下さり、沢山の人たちに会い、人間関係を作り出し、笑顔をもって深めることができました。



## 北見 焼き芋会を開催しました！

10月末に焼き芋会でチミケップに行ってきました。

保育園 joy で行くのは夏以来の子どもたち。夏の緑が青々と茂っていたチミケップが赤や黄色の紅葉色に染まり、きれいな秋の季節に移り変わっていました。

楽しみにしていた焼き芋会。自分たちで枝や落ち葉を拾い、お芋を焼く準備をしました。異年齢でチームごとに集めていき、年長児がちょうどいい枝を拾ったり、それをのせたソリを引っ張ってあげたりしていました。集めた落ち葉シャワーを掛け合ったり、ブローで落ち葉が舞うのをみんなで追いかけたりなど、秋を楽しむ様子も見られました。

集めた落ち葉を焼き始めどんどん煙が出てきて、サツマイモを投入！他にもリンゴやキウイ、バナナを入れて見ました。沢山遊んだあとに食べる焼き芋はホカホカで、おかわりもたくさん！リンゴも美味しかったです。ポカポカな日差しで気持ちの良い天気の中で行うことができました。



## とちぎ帯広 YMCA バザー開催！

10月7日(土)、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って自粛していたYMCAバザーを4年ぶりに開催しました。ご家庭から寄せられたハンドメイド雑貨やリサイクル品の販売やアフタースクールゲームコーナーに恒例のビンゴ大会と、コロナ前からYMCAに通われていた保護者の方々は懐かしさを感じられたようです。また、十勝ワイズメンズクラブによる炭火焼き鳥もおいしさそのままに復活し、YMCAバザー初体験の皆さんにも大好評でした。

今回のバザーでは、コロナによる自粛期間中に「今年はどう？まだダメなの！？」とバザーの復活を心待ちにしていた幼保園卒園児の小・中学生が、事前準備や当日の運営で活躍する姿が印象的でした。子どもたち、保護者、ワイズメンズクラブ、スタッフのみんなの力で復活させたバザーに大満足な一日となりました。皆様のご協力に感謝いたします。



# ワイズ便り

## 「50周年を迎えました」北見ワイズメンズクラブ

北見クラブは今年創立50周年を迎えました。北見YMCAやチミケップキャンプに協力することで社会に奉仕する活動を続けてきました。

今年は北見クラブがワイズ北海道部の部会開催担当でしたので、それに合わせて創立50周年記念として、「50周年メモリアル」を8月26日に部会と同時開催しました。

北見市内のホテルで北海道部会をし、懇親会に移る間に50周年メモリアルを実施しました。北海道部会には道内の札幌クラブ、十勝クラブはじめ、山田公平東日本区理事や富士山部の方々など総勢30名の参加を見ました。

50周年メモリアルの内容は・会長挨拶・スライドを使っの50年の歩み紹介・記念誌の発行の紹介・チミケップキャンプ寄付として50万円の贈呈というものでした。約50分間という短い時間ではありません

したが、一つのけじめとしてこのような場を持たせていただきました。感謝申し上げます。

コロナ禍が落ち着き徐々に通常に戻りつつあります。ワイズは常に新しい試みにチャレンジしています。これからも社会に少しでも奉仕できるワイズの活動を続けていきたいと思ひます。



## INFORMATION

### 2023年度国際協力募金のお願い

北海道YMCAの国際協力募金の第1の用途は、ベトナムメコンデルタ地域の農村で子供達が安心して学べる環境を整備するための教室建設です。教室建設は、ベトナムの子供達の大きな希望であると共に北海道YMCAにとって「ポジティブネットのある豊かな社会」を作り上げていく大切な事業であり、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」の実現に貢献する活動でもあります。今年度も8月に幼稚園の教室を建設しましたが、世界的な資材高騰と円安の影響により、予算を大幅に超える10,000US\$となってしまいました。

教室建設以外にも、ベトナムボランティアワークの旅実施費用、ベトナムハンディキャップセンターで製作しているビーズキーホルダーの購入などに使われています。又今年度は、全国のYMCAが協働で取り組む「パレスチナ緊急支援募金」にも使わせて頂きます。是非、ご協力をお願いいたします。

#### 募金方法

①札幌・とち帯広・北見の各YMCAの受付にお持ち下さい。

②ゆうちょ銀行への振込

口座名：北海道YMCA

番号：02710-2-16297

\*「国際協力募金」とお書き下さい。

※国際協力募金は、税制控除の対象になります。



### 寄付及び会費の納入・募金へのご協力に感謝申し上げます。(2023年10月～入金者・敬称略)

○寄附  
チミケップキャンプ場整備のため：北見ワイズメンズクラブ

○維持会費：植田浩司 高村茂生 濱崎裕

○賛助後援会費  
法人：(有)ワイズ保健企画 (株)オイルターミナル サッポロビール(株)北海道本社 札幌マタニティー・ウイメンズ・ホスピタル 三建設備工業(株)北海道支店 (有)義村リアルティ ライオン(株)

○国際協力募金：石井郁子 聖マーガレット教会



## 第35回東日本ユースボランティアリーダーズフォーラム参加報告 菅 遥香さん 藤野 結衣さん

3日間のフォーラムは私にとってかけがえのない経験になりました。

初日は初対面のリーダー達と打ち解けられるか不安でした。アクティビティやグループ活動を通して徐々に打ち解けていき、楽しい3日間はあっという間に過ぎました。最初に感じていた不安が嘘だったかのように最終日にはグループの仲間と固い友情が生まれ、離れる寂しさで胸が一杯になりました。

グループでの活動は私のYMCAの活動に対する捉え方を変えました。フォーラムに行く前はリーダーの役割は子供たちが楽しく安全に活動できるようにサポートすることだけだと思っていました。しかし、グループメンバーの子供達に真摯に向き合う姿勢に刺激を受け、個性豊かな今回参加したグループメンバーと関わり自分と相手との「違い」の素晴らしさを再認識しました。

また、普段とは逆の立場でキャンプに参加し、子供達とリーダーの関わりの重要性を実感したことで活動に対する軸のようなものが自分の心の中に生まれました。子供たちが活動を通して何かひとつでも成長できるように、子供達がそれぞれの「違い」をお互いに尊重しあえる関係づくりへのサポート、そして一期一会の出会いから育まれる友情があることを活動から実感できるようにすることが今の私の軸であり役割だと考えています。

フォーラムを通して得ることができた活動に対する軸を大切に、これからのYMCAの活動に真摯に取り組んでいき、さらにより良いものにできるように自分から積極的に行動していきたいです。(菅 遥香※写真下段左から5番目)

私がYMCAに出会ったのは約12年前です。小学生の長期休みは必ずと言っていいほどYMCAのキャンプやスキッププログラムでお世話になり、いつ行っても楽しかった思い出ばかりです。そんな気持ちにさせてくれていたリーダーの姿に憧れを抱いていた私は、大学生になってからリーダーという形で再びYMCAに戻ってきました。

そんな中、周りの方に背中を押ししていただきフォーラムに参加することになりました。初めは不安もありましたが、東日本各地から集まったリーダーたちとの出会いはとても刺激的で、一生の記憶に残るような3日間となりました。

3日間の中ではYMCAのスローガンであり、フォーラムのテーマにもなった、「みつかる。つながる。よくなっていく。」について、グループの仲間と議論を重ねました。1つの議題に対してこんなにもたくさんの時間をかけ、たくさん頭を悩ませたことは初めての経験でした。また、食事の時間、ビッグカヌー、キャンプファイヤーなど、仲間と過ごした時間のすべてが今でも鮮明に思い出されます。

フォーラムに参加することでしか得られなかった貴重な経験や出会いをすることができ、あの時参加することに決めて本当に良かったと心から思います。

(藤野 結衣※写真下から3列目左から6番目)

# 第28回ベトナムボランティアワーク



## 第28回ベトナムボランティアワークに参加して

伊藤 徹さん

(北海道YMCA 国際協力委員)



コロナ感染拡大の影響を受けて、ずっと派遣が出来ずにいたボランティアワークがようやく4年ぶりに実施された。(自分自身にとっては、実質18回目の参加になるのではなかろうか)

今回は、コロナがとりあえず落ち着いたばかりということ、日程がこれまでより1週間ほど遅めになったということ、現職で働いている方々が休みを取りにくかったこと、コロナ後あらゆるところで影響を受けているが航空費を含む諸経費が大幅にアップしたこと、そしてこれまでの参加者の高齢化など、多くの理由からか参加できたのはYMCA職員を含めて3名。

正直、この人数で現地に行って、自分たちの目的が果たせるのか？と不安でいっぱいだったのは間違いない。

小学校の教室ではなく、久しぶりの幼稚園教室を造るということで、どのようになっていくのかと心配ではあったが、それでも、ベトナム側のスタッフのいろいろな配慮で、無事に教室を完成させ、贈呈することもできたのが何よりだった。

まずなんと言っても、ありがたかったのは幼稚園の先生方の強力な協力。

複数の先生方が毎日交代で作業に参加してくれ、作業も自分たちと共に本当に熱心に取り組んでくれたこと、そして毎日美味しい昼食を作ってくれ、それをいろいろ身振り手振りでやりとりしながら楽しい雰囲気の中で一緒に食事ができたことは本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。

お互いに日本語・ベトナム語の言葉で伝え合うことが難しかったものの、そこはやはり心と心でわかり合えるということが実感できた素晴らしい時間と場であったと思っている。

また、今回の通訳者が2019年にベトナム側の学生ボランティアとして参加していた人物であったのが心強かった。

大学卒業後は現地の日系企業に就職し、日本語にさらに磨きをかけて流暢に通訳の役目を果たしてくれていたし、自分たちのボランティアワークの目的や一連の作業の中身・流れもしっかり理解してくれていたのも、本当に助かった。

次年度以降、このボランティアワークがどのように進められていくことになるのかは、これからの関係者による話し合いによるのだろうが、できることであれば今後もこの取り組みが継続されていくことを願っている。

## おめでとうございます！



## 第34回 MOA 美術館 帯広児童作品展

MOA 美術館奨励賞

まるやま  
丸山

えな  
恵永

さん (とち帯広YMCA)



## 第67回全道学校書道展

推薦

かわぐち  
川口

りんと  
凛斗

くん (とち帯広YMCA)

## 札幌 2023 年度北海道 YMCA 会員大会

11月3日(金)文化の日に2023年度北海道YMCA会員大会が行なわれ、オンラインを含め58名の参加がありました。

開会礼拝では、札幌国際キリスト教会の池田創造牧師より、マタイによる福音書5章9節「平和を作る者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」から平和についてのメッセージを頂き、10月7日に始まったイスラエルとパレスチナの紛争で苦しむ人々を覚えて祈りを共にしました。

事業報告に続いて行なわれた会員表彰では、永年北海道YMCAの評議員・教育センター委員長を務めて下さった八田牧人さんに「奉仕の書」、札幌で野外活動のユースボランティアリーダーとして活動している加野誠さんに「奉仕賞」が贈呈されました。

記念講演&トークセッションでは、松田考さん（一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットワーク代表理事・北海道YMCA教育センター委員）より、「子ども・若者の居場所を作る」―地域を巻き込んだ若者や子育て支援の取組み―をテーマに講演があり、その後参加者間でのトークセッションがおこなわれました。松田さんの活動とYMCAは、青少年の育成に取り組むという共通点があり、私たちにとって学ぶ事が多くあったと同時に、今後は協働して地域で活動していける可能性を感じる事が出来ました。



## 北見 ピンクシャツデー

北見ランチでは2015年より北見YMCA joyに通う園児やアフタースクールに通う小学生を対象に、ワークショップやスライドを用いながらの啓発活動を行ってきました。

毎年、2月の最終水曜日に向けて、今年はどの様に取り組もうか？と相談しながら準備を行う事が通例となっていました。YMCAに通う子どもたちには2月をピンクシャツデー月間として最終水曜日に限らず働きかけを行い、会員保護者への紹介や北見ワイズメンズクラブにも例会等で賛同を呼びかけました。

更に年間を通じてYMCAと関りを持つ事になった企業や団体との打合せの際に、ピンクシャツデーの缶バッジを名札に付けた上、説明の資料を携えて『ぜひこの活動に賛同して頂けませんか？』と広報を繰り返した結果、YMCAが直接呼び掛けをしていない方から『ピンクシャツデーについて教えて欲しい』との依頼を受けるまでになりました。

今年度もYMCAに通う子供たちへのワークショップと今までに賛同して頂いた学校や企業のフォローに加え、年間を通して北見、オホーツク地方にこの運動を紹介し賛同を呼びかけて行きたいと思います。



## とち帯広 認知症キッズサポーター養成講座

10月26日、幼保園では年長たいよう組の園児を対象とした認知症キッズサポーター養成講座を実施しました。「お年寄り仲間になろう」をテーマに、音更町役場や高齢者施設の職員の方の劇やパネルシアターで学びました。「お年寄りに話しかけても気づいてもらえなかった時は、大きな声で言ってみよう」、「同じ話を繰り返すことがあっても、優しく聞いてあげよう」など、自分の身近なお年寄りに起こるかもしれない変化とその対応方法に知ることができました。

これからも、とち帯広YMCAは活動を通して誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに努めていきます。



# ワイズ便り

## 「クリスマスもち米プレゼント」

### 十勝ワイズメンズクラブ

クラブの今一番の話題は今年 6 月 1 日(土)に十勝で開催される第 27 回ワイズメンズクラブ東日本区大会です。これまで準備を進めてきましたが、開催まで残り半年となり、全てのワイズが実行委員会に加わり気持ちが高まってまいりました。YMCA の皆さんも大会に参加いただけると感謝です。

最近の活動としては、11 月 28 日に十勝クラブが 40 年以上に渡って地域奉仕の一環として行っているクリスマスもち米プレゼントがありました。今回は 11 月 28 日に 9 名のメンバーが特別支援学校や福祉施設等およそ 20 か所を訪問してもち米を寄贈しました。このもち米は、YMCA が 1 月に行うお餅つきで使われ、クラブの有志が餅つきの応援に駆けつけています。



## INFORMATION

### 能登半島地震 YMCA 緊急支援募金 2024

募金期間 2024 年 2 月 29 日まで

#### ◆募金使途：

- ・被災地近隣 YMCA と協働して行う、能登半島地震の被害を受けた地域への支援活動
- ・YMCA が関係する災害支援団体との協働で行う支援活動

web からの募金も可能です。右の QR コード又は下記のアドレスから Web サイトにお入りください。 <https://www.ekaiin.com/projects/3004>



## 2023 年度 ピンクシャツデー

2007 年 2 月、ピンクのシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩 2 人が 50 枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では、呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなりました――。

このエピソードは SNS 等で 70 カ国以上に広まっていき、カナダでこの出来事があった 2 月の最終水曜日は「ピンクシャツデー」とよばれるようになり、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す 1 日とされています。

社会全体がいじめに対して「自分ごと」として向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、傷つけ合うことのない平和な社会につながっていく…と考えます。

一人ひとりが勇気をもって、「自分ではない誰かのために」、そして自分たちのために行動しませんか。

YMCA はそのようなポジティブで前向きな「よくなる」の連鎖を大切にします。今年度のピンクシャツデーは下記の日程で実施しますのでぜひ皆様もピンクのシャツや小物を身に付けてピンクシャツデーに参加しましょう！

### YMCA ピンクシャツデー

2024 年 2 月 28 日 (水)

